

小郡向築地遺跡 2

福岡県小郡市小郡所在遺跡の調査報告
小郡市文化財調査報告書第 239 集

2008

小郡市教育委員会

<序 文>

小都市ではこれまでニュータウン開発や工業団地造成などの大規模開発に対応して数多くの発掘調査を行ってきました。近年では市内の主要幹線道路整備に伴う小規模な開発や住宅建築も盛んに行われ、緊急発掘調査の対応により、小都市全体の歴史像が次第に明らかになりつつあります。

今回報告する「小郡向築地遺跡2」は、範囲も限られた小規模な調査ではありますが、多紐細文鏡の出土した「小郡若山遺跡3」からの遺跡の広がりが確認され、新たな資料を加えるものとなりました。残念ながら遺跡は開発と引きかえに消失することになりましたが、今回の発掘調査が生かされるとともに、今後の文化財保護の向上に役立つことを願ってやみません。

調査にあたりましては、地権者の赤坂昭恵さん並びに赤坂昭彦さんには深いご理解とご協力を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。

平成20年3月31日

小都市教育委員会

教育長 清武 輝

<例 言>

1. 本書は、福岡県小都市小郡字向築地 567-1・569-1 の一部における店舗建設に伴い消滅する埋蔵文化財について、平成19年度に小都市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 本書に掲載した遺構・遺物実測は、担当（佐藤）が行い、製図は吉田あや子・熊本佳奈が行った。
3. 遺構写真は佐藤が撮影し、遺物の写真は「写真工房岡」の岡 久夫が撮影した。
4. 遺構実測図中の方位は真北を示し、座標は国土地標によっている。
5. 本文並びに写真図版における遺物番号は、挿図における番号を示す。
6. 本書の執筆・編集は佐藤を行い、遺物・実測図・写真は小都市埋蔵文化財調査センターにて保管管理している。

<本文目次>

第1章 調査の経過と組織	1
第2章 位置と環境	1
第3章 遺構と遺物	3・4
報告書抄録	6
第1図 周辺遺跡分布図(1/25,000)	2
第2図 小郡向築地遺跡2位置図(1/2,500)	2
第3図 調査区周辺地形図(1/500)	3
第4図 K-1 土層断面図(1/40)	3
第5図 遺構配置図(1/80)	4
第6図 出土遺物実測図(1/4、※1/2、▲1/3)	4
写真図版(発掘調査写真及び遺物写真)	5・6

第1章 調査の経過と組織

小郡向築地遺跡2の調査は、店舗建設に先立ち小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の有無について照会があったことに始まる（審査番号7022）照会を受けて平成19年5月16日と6月5日に試掘調査を行った結果、遺構が確認されたため埋蔵文化財に関する調整が必要となった。なお、当該地は住宅や養豚施設があったことと、地権者による植木の植栽が頻繁に行われていたため、遺跡の残存状況が大変悪く、確認された範囲はごくわずかであった。協議の結果、遺跡が確認された範囲に店舗建設個所がかかるため、工事の影響を考慮し遺跡を確認した範囲全体について発掘調査を行うことになった。平成19年6月12日付で地権者の赤坂昭彦氏と埋蔵文化財発掘調査委託契約書を締結し、調査を実施した。

現地調査は、6月18日（月）に重機による表土剥ぎを行い、翌19日（火）より作業員を導入して遺構の検出と掘り下げを順次行った。21日（木）には調査区全体の写真撮影を行い、翌週の26日（火）・27日（水）で実測作業を行った。28日（木）には重機による埋め戻しを行い、現地作業を終了した。報告書は同年度中に作成した。

調査の体制は以下のとおりである。

〔平成19年度〕

小郡市教育委員会	教育長 沢式 順
教育部	部長 池田 浩
文部省	課長 ? 管理代太
係長	重松二郎
企画課	片桐宏二
校長	佐藤雄一

〔現場作業員〕 小川廣行・?・賀田一・森田亮治

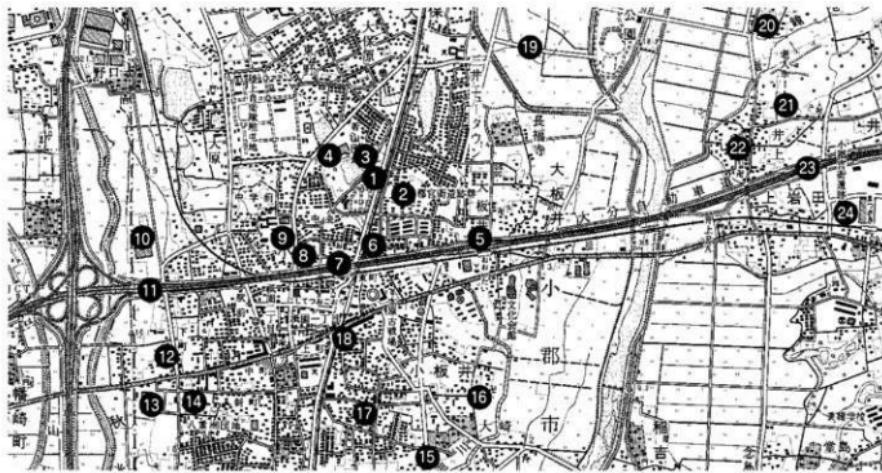
第2章 位置と環境

小郡向築地遺跡2は、主高川の左岸、三ヶ丘陵からなだらかに傾く傾斜地上に位置する。当地の東西には谷部があり込み合ひながら落ち込んでいる。当地はこの谷部にまたがる落ち寄部分にあたり、現況での標高は17.00～18.00m程度である。前述したように、試掘調査では住宅や養豚作事の解体に伴うものと思われる焼瓦や瓦礫の埋め込みが多く検出され、全件の三ヶ丘陵も谷間にかけて傾きが傾く傾向が見られる状況が確認された。また、植木鉢栽培による堆積込み・均耕作歴の跡り返しにより、当地に適する数多くの焼瓦を受けている状況であった。

当地周辺では、内側でもさながら追跡がいくつか検出されている。まず、鹿角市が「段の城跡を塁んだり」には「増尾寺跡の小郡守御道跡（小郡守御道跡・小郡守御道跡上者？追跡）」が所在し、7世紀後半～8世紀後半にかけての三ヶ丘陵にわたる守御道跡の変遷が明らかにされ、古代洋房院跡跡の都役所に指定されている。小郡守御道跡周辺では「倉跡（大坂井追跡X）・集落（名塚追跡）・古道（小郡前伏追跡）・馬糞跡における埴装状跡」による追跡（ト坂井追跡18B）等、様々な関連遺跡がこれまでに見つかっている。

続路町では、これまでに小郡若手追跡が6ヶ所にわたり検出されている。この中、小郡若手追跡3では季三ノ期から四ノ期にかけての集落が検出され、集落より多細部で鏡二面を埋納した土器が検出されている。近隣では小郡守御道跡・小郡若手追跡2・大坂井追跡等でも季三ノ期の小規模な集落や墓地が確認されており、当地周辺における季三ノ期集落の存在を物語っている。季三ノ期の場合は、季三ノ期と7～8世紀に集落形成のピークが見られるが、小郡若手追跡でもこれまでに小郡守御道跡の集落が確認されており、その関連が見出されるところである。

小郡向築地遺跡2は、これら小郡守御道跡と小郡若手追跡群の周辺にあたり、残存状況は悪かったものの、今後の調査でも関連する遺跡の一部を検出することができた。



- | | | | |
|-------------|-------------|-------------|--------------|
| 1. 小郡市築山道跡2 | 7. 小郡前伏道跡 | 13. 稲葉の上退跡 | 19. 小坂筋伏道跡 |
| 2. 小郡宝町道跡 | 8. 小郡木戸道跡 | 14. 小郡堂の前退跡 | 20. 今鶴石道 |
| 3. 小郡若山道跡 | 9. 小郡引見道跡 | 15. 小島小原道跡 | 21. 沢上平原道跡 |
| 4. 小郡引見道跡2 | 10. 小郡川原ノ道跡 | 16. 小坂村馬歌道跡 | 22. 沢上脇石 |
| 5. 小坂村道跡 | 11. 小郡三井道跡 | 17. 小島カガリ退跡 | 23. 沢上久我伊音道跡 |
| 6. 布施生道跡 | 12. 小郡四丁道跡 | 18. 小坂村京塚道跡 | 24. 一谷リ道跡 |

第1図　唐辽遺跡分布図 (1/25,000)



第2図　小郡市築山道跡2付図 (1/2,500)

第3章 遺構と遺物

発見調査は、遺跡を確認した範囲(39.3 m)について実施した。検出した遺構は、二段が2基とピットが14穴全りである。第5号の遺構配図にも示しているとおり、検出がひどく残存していた遺構検出区はわずかである(遺構検出区の標高は、17.00~17.25m)。遺構検出区の中心は、上部が灰褐色で、下層に行くにつれて灰褐色の砂となる。検出のほとんどが灰褐色の砂に達していた。

K-1 (第4・5図)

調査区は、土や砂質からの検出である。部分的な検出のため全般的な形状は不明だが、検出部では幅員長

2m程度のV字形をなす。斜面で入り合っているピット状の落ち込みを以て幅1.45m、深さ50cmを測る。検出した遺構は8点で、6-3~6-7は壁上層から、6-8~9は下層からの検出である。6-3は壁上層の頭で、頂部に空洞3穴を巡らす。調査は大きさをヨコナデ、大きさはナデと思われる。6-4は壁上層頭部の縫合部である。調査ははつきりしないがナデもしくはヨコナデである。6-5~6-8は須賀器の破片で、大きさには複数のタタキを、大きさには幅1.45mを測る。いずれも焼成は良好で、瓦礫は灰褐色からも灰褐色をなす。6-9は須賀器の身の縫合部である。全般的な形状は下甲であるが、7~8世紀代にかけてのものと見えられる。瓦礫は淡色灰褐色をなす。6-10は無形としたが、残存長5.1cmで、幅9mm、厚さ4mmとやや扁平である。瓦礫部でも6.5mm程度の幅を有し、斜面は異なる可能性もある。本質筋は確認できなかった。

K-2 (第5図)

K-1の中央部に入り合う落ち込みを二分としていたものである。壁上層は淡い灰茶褐色で、K-1に接する。充填した状態では、ピット2穴とピット状の落ち込みが融合したもので、整然な形状をなさない。検出幅0.7m、深さは20~30cm程度である。遺構は、壁上層1点が半壊した。本質筋は淡灰褐色の粘板岩ホルンフェルスで、厚さ8mmを測る。全表面を磨き上げ、幅7~9mmのV字を磨き出している。

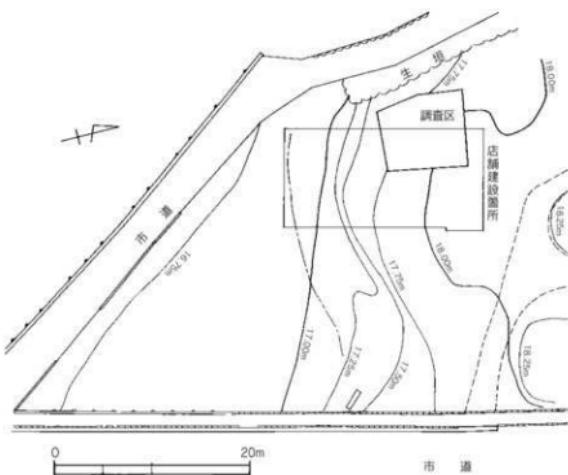
K-3 (第5図)

調査区で検出した落ち込みで、全般的な形状は下甲である。検出長1.4m程度で、深さは20cm程度と浅い。遺構は検出していない。

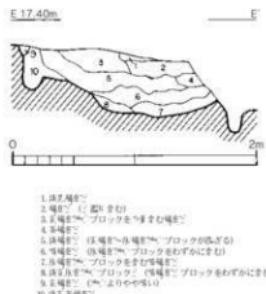
ピット (第5図)

壁上層は茶褐色系の本質筋からなる。残存状況も悪く、形状もまちまちであるが、幅15~40cm、深さは残りの長いもので40cmを測る。柱を立てるものや、柱頭を有するものは確認できなかった。遺構は、P-2から壁上層の頭部の縫合部が(6-12)、P-4からは壁上層の頭部が半壊した(6-13)。

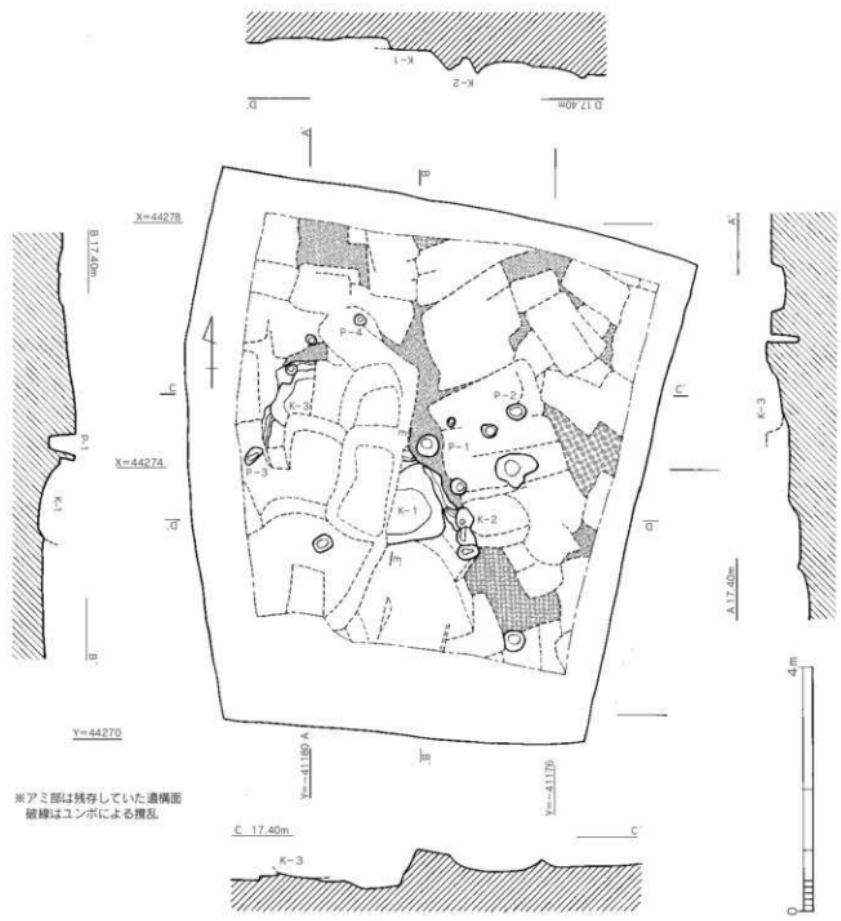
なお、壁上層のP-1と6-2は手で剥離して採取したものである。



第3図 調査区周辺地形図 (1/500)

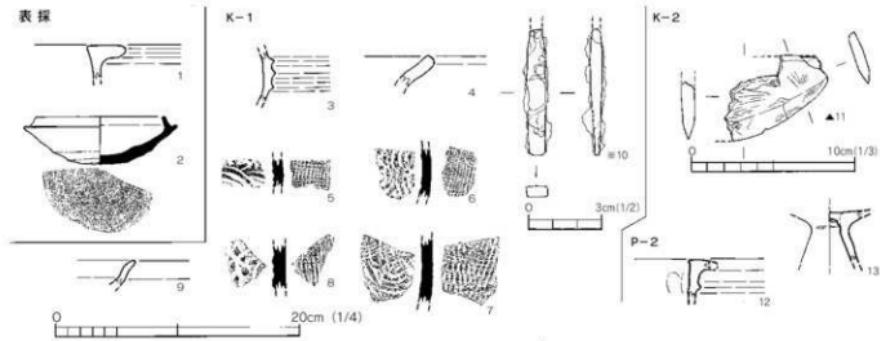


第4図 K-1 土層断面図 (1/40)



第5章 遗嘱配图 (1/80)

表 摘



第6章 日本通的头深字(1/4、※1/2、▲1/3)



①調査区全景（線路の向側が小郡官衙遺跡）



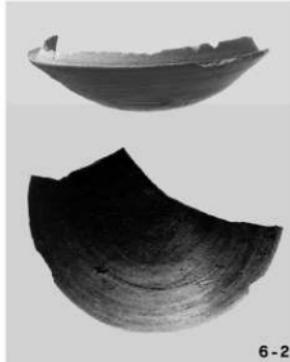
③K-1 土層断面



②調査区全景（北から）



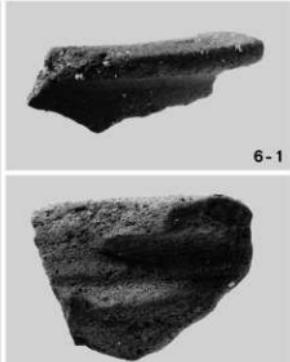
④K-1



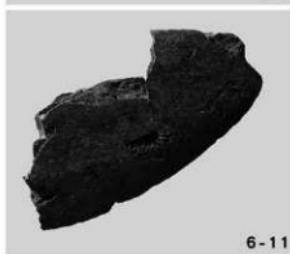
6-2



6-10



6-12

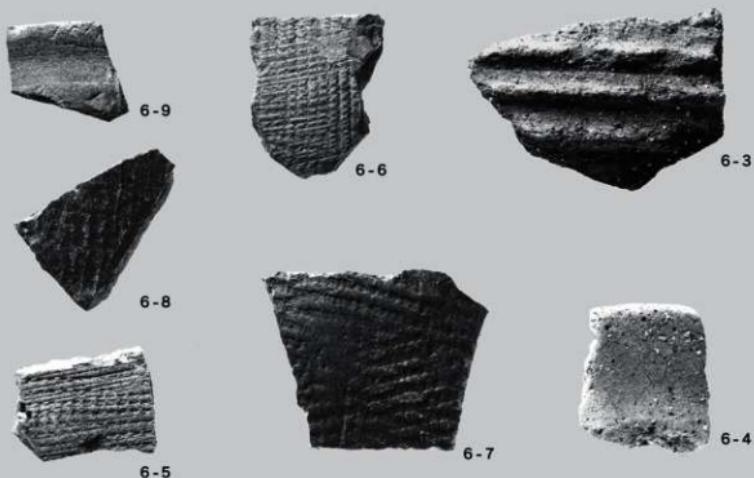


6-11



6-13

表採土器及びK・P出土土器（鉄器）



K-1E2三器

ふりがな	おごおりむこうちじいせきに						
番名	小郡内築山遺跡2						
別番名	福岡県小郡内小郡町佐世保の森小郡						
登録							
シリーズ名	小郡内で発見調査報告書						
シリーズ番号	第239集						
編著者名	吉藤雄一						
編集機関	小郡内調査委員会マガジン 小郡内調査マガジンセンター						
所在地	〒838-0106 福岡県小郡内三沢5147-3 Tel0942-75-7555						
発行日月日	2008年(平成20年)3月31日						
ふりがな 所々遺跡名	ふりがな 所々名	コード	二輪	束縛	調査期間	調査面積	調査原稿
おごおりむこうちじいせき 小郡内築山遺跡2	ふくおかけん おごおりし 福岡県 小郡内 おごおり 小郡	40216	33° 23' 54"	130° 33' 26"	20070618 20070706	39.3m ²	吉藤雄一
所々遺跡名	種別	さな時間	さな遺構	さな遺物	結果項目		
小郡内築山遺跡2	集落	季節 代	二重・ピット	季節 遺構 器			

小郡内築山遺跡2
小郡内で発見調査報告書
第239集
2008年3月31日
発行 小郡内調査委員会
福岡県小郡内小郡255-1
空附 個人蔵空附有累会社
福岡県朝倉市木32-1